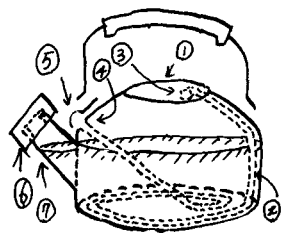
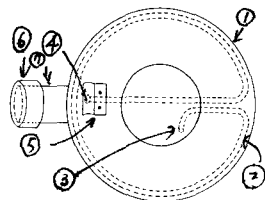


安全湯ゆかし(やかん)の開発 (第1報)

長崎大教育 重永幸男



第1図 本器の斜視図

第2図 本器の上面図
(取手を除く)

目的 従来から一般に用いられている湯ゆかし(やかん)はきわめて危険である。冬期、ストーブの上にかけている湯ゆかしを転倒する事故は非常に多く、とくに幼少の子どものいる家庭や幼稚園、北口の小中学校、特殊施設等における管理者の注意は、はかりしれないものである。

本研究は、たとえぬぐって転倒しても多量の熱湯が流出する危険もなく、安全性の高い湯ゆかしの開発を目的としている。

構造 第1図、斜視図および第2図、上面図において示すごとく、上部からたかの容器①の内部に曲げ管②を配設し、その一端③を器内最高部に取って蒸気吸入口とする。さうに曲げ管は底面を周回し、その他端④は容器前方上部において器外に開口し蒸気噴出口となる。⑤は蒸気を左右に放射するための放射板。⑥は密栓。⑦は液体注入口兼取出口である。

使用法 注水後密栓を1で底部から加熱すると、器内上部にたかの蒸気は蒸気吸入口から管内に入り、底部を一周して蒸気噴出口から噴出する(管内に入るものは蒸気のみですので堆積するものではありません)。本器は非密封構造であるにもかかわらず、単純に転倒した場合、内管の何れかの部分があがらず液面より上部に出るので、内容液は流出しないから安全です。